

災害被災地ボランティア 2日目

本日より被災現場でのボランティア活動に入りました。小田川の氾濫から1ヶ月以上経過しましたが、その爪痕はいまだにはっきりと残っていました。今回参加した高校生たちは二手に分かれ、それぞれ被災された方々の自宅にて活動を行いました。家屋は一度浸水すると、畳や壁などが腐食し始めてしまうため、水がある程度引くとそれらを撤去する必要があります。また、浸水により川から土砂が流入するため、以前はよく手入れをされていた素晴らしい庭園も埋まってしまっていました。被災された多くの方々の思いが詰まった家屋や庭園を以前の状態に戻す手助けができるよう、微力ながら協力をさせていただきました。

真備町で見た景色の一部

※個人情報の保護のため、一部ぼかしを入れております。



＜ボランティアセンター内にて＞

左：ボランティア募集の脇に応援メッセージがありました。
右：ボランティアに参加された方の人数が明記されています。

＜現場へ向かう道中にて＞

土砂の流入がひどく、手前の駐輪場が埋まっています。



二日目の活動を終え、その日感じたこと・考えたことを全員で共有をしました。

現場に向かった高校生は、作業開始前に被災された方と実際に会い、水害によって日常生活が非日常になったことを深く知りました。

また、現状が想像していたものとは異なっていることを知り、自分たちが見聞きしたことを多くの人に伝える必要が強くあることを感じました。